令和６年度アレルギー疾患医療連絡会議　会議録　要旨

開催日時：令和７年１月 30 日(木)　18 時から 19 時 30 分まで

開催方法：Zoom によるオンライン

座長：信州大学医学部内科学第一教室　花岡構成員

【会議事項】

（１）　長野県におけるアレルギー疾患対策の取組について

〇事務局(保健・疾病対策課)　資料１により説明。

〇食品・生活衛生課　資料２により説明。

〇教育委員会　保健厚生課　資料３により説明。

（２）　拠点病院・関係団体等の取組について

〇信州大学医学部皮膚科学教室　木庭構成員

信州大学の取り組みとして皮膚科領域のことにはなるが、現状では県内の様々な医療機関から成人の食物アレルギーや薬物アレルギー患者に関してご紹介いただき、アレルギーの原因を調べるための検査や生活指導等を行っている。

それ以外では、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹について、学童期までの患者の紹介は少ないが、主に思春期以降の子どもや成人の患者の診療にあたっている。

また、医療従事者への教育といった面においては、病院全体ということではないが、科内で事例の検討会を行っており、今後の検査内容の検討や共有、またアレルギーに関する最新情報を勉強しているほか、学会や研修会などにも積極的に参加するように皆で取り組んでいる。

〇花岡座長

信州大学では、アレルギーの新専門医制度のプログラムを構築するということで動き始めており、院内関係各科の先生方、あるいは県立こども病院の先生方と連携し、プログラムの作成について取り組んでいる。

ただ、日本アレルギー学会と日本専門医機構の調整がうまくいっておらず、いつからこの制度が開始できるのか見えないところがあるが、いずれにしても長野県としてアレルギー診療に従事していただける先生を増やそうと鋭意努力している。

〇長野県立こども病院アレルギーセンター　伊藤構成員

先ほど長野県の取り組みについて県より発表があったが、栄養教諭や養護教諭など様々な研修に講師として声をかけていただき、数多くの研修を実施した。昔に比べると研修の機会が増えたというのも実感している。

診療については、こども病院では専門医 3 名、去年と変わらず診療を継続している。今年度の 5 月に、日本小児アレルギー学会の協力もあり、県内小児科の若手の医師 36 名を対象に、小児のアレルギーの基本的な知識を学ぶセミナーを開催した。連携を作るという意味で、研修会をきっかけにメール等の相談も若い先生から増えてきた。今後もこのような形で人材育成に協力できればと思う。

当院の新たな取組として、アトピー性皮膚炎の子どものスキンケアに関する教育プログラムを開始。保護者がスキンケアを実施する際に不安を感じていることも多く、外来では多忙で十分な指導ができないため、日帰り入院という形で２～３時間かけて実際にスキンケアや塗り薬の塗り方について指導を行っている。

〇長野県立こども病院アレルギー科　小池構成員

各学校や自治体から講演依頼があり、積極的に協力している。日常的な診療においては、特に就学されているお子さんについて、学校での活動や給食に限らず課外活動等でも困ったことがあれば、学校から相談いただき、返答している。

その他、診療所等の開業医の先生方からの質問についても対応している。

〇長野県歯科医師会　齋藤構成員

歯科診療においては、診療で用いられる麻酔薬やホルマリン製剤等に対するアレルギー、あるいは患者さんに処方する薬で主に抗生剤や鎮痛剤等がアレルギーへの対応が必要になるが、特に麻酔に関してはアナフィラキシーショックという重篤のものを引き起こす可能性があり、私達歯科医師は日頃から十分に研修を積んでいる。

口腔内に残すものとしては、歯科用金属や義歯に用いる金属に対してアレルギーを発症することがある。また、歯に詰める合成樹脂等も可能性としてはある。

特に金属アレルギーに関しては、皮膚科の専門医の先生と協力しながらパッチテスト等を行い、除去の必要があるかどうか検討の上、治療にあたっている。

今後の取組みとして、具体的に決まっているわけではないが、歯科医師会の会員を対象とした研修会の開催について検討している。例えば、医療安全研修会を年１回開催しており、全会員が受講する機会があるため、こういった機会を利用していく方法と医歯薬連携といった連携の事業を行っているため、そういった事業を活用した研修会も検討中。開催する際は、医科の先生へ講師等をお願いすることとなるかもしれないため、その節はよろしくお願いしたい。

〇長野県看護協会　平山構成員

看護協会としては、日本アレルギー学会の研修の周知等、他団体の研修会を会員に周知している。

また、長野赤十字病院では、アレルギー科が併設されて以降、病診連携が進んできており、開業医の先生方からアレルギー患者の負荷試験等について紹介をいただき、件数も増加してきている。そのため、病棟でのアレルギー負荷試験の実施や外来におけるアレルギーの評価を行う必要があるため、関わる看護スタッフ等の教育として有資格者である「アレルギー疾患療養指導士」が中心となり、看護スタッフの指導をしている。また、継続した治療が必要であるが、自己中断される方も多くなってきているため、外来との連携についても取り組んでいる。

当院では小林医師がアレルギー専門医としてアレルギー科に従事しているが、研修医と小児科医師に対するアレルギーに関する教育活動として、院内の研修会を実施している。また、小林医師は地域での活動にも意欲を持っており、ご紹介いただければぜひ協力したいとのことだったため、御承知おきいただければと思う。

日本赤十字社独自の活動としては、幼児安全法や救急法について周知する活動を実施しており、各団体や保育園からご依頼いただき、教員や幼稚園の先生や施設に所属している看護師に対して、主にアレルギーのアナフィラキシー時の対応について教授活動をしている。

〇長野県薬剤師会　鬼窪構成員

長野県薬剤師会としては、県薬剤師会主催の人材育成に係る研修会等は実施しておらず、他団体主催の研修会を会員へ周知しているところ。

ただ、各地方の薬剤師会においては、それぞれの病院等との連携や抗アレルギー剤もしくはアレルギーに関する普及啓発的な研修会等はスモールグループにはなるが、実施しているところはある。

病院の薬剤師と地域の保険薬局、かかりつけの薬局との薬薬連携については色々と取り組んでおり、例えば病院に入院時もしくは退院時に、患者さんのアレルギーの情報を共有するための指定書式を作成し連携しているところや、外来においては、かかりつけの薬局が在宅での療養中の患者の様子について定期的にモニタリングを実施しているところもあり、そういった様子をトレーシングレポートというような形で病院にフィードバックいただいている。そのため、退院後にアレルギーの症状が出現した場合は、レポートを提供いただいたり、緊急の場合は直接連絡したりなど、薬薬連携を進めている。

〇長野県栄養士会　馬島構成員

長野県栄養士会としては、県民に向けた普及啓発活動の取組はないが、会員にアレルギーに関する知識を勉強の機会として、生涯教育研修会や各職域の研修会において、アレルギーの専門的な知識を習得できるよう講習会を実施しており、今年度は県立こども病院の伊藤先生にご講義をいただいた。

また、事務局より災害時の備蓄についての説明もあったが、長野県栄養士会においても特殊栄養食品を日本栄養士会や賛助会員の方と連携して、災害時等に備えたアレルギー対応の食品も備蓄している。ただ石川県の能登半島地震時の支援における反省点を踏まえ、備蓄品に関して課題と考えるのは、多職種の連携や横の連携がうまくいかないがために、備蓄品がどこに何があるかが伝達されず、必要な時に必要な人への支援ができない状況であった。長野県の中でも今後に備えて備蓄品の情報共有や連携方法の検討が必要ではないかと考える。

県の方から学校の取り組みについても紹介があったが、病院や老人保健施設等では入院や入所時に、患者にアレルギーの情報を記入いただき、入院時に管理栄養士が担当の患者から細かく確認しているところだが、患者も自分がどの程度のアレルギーなのかを聞かれた時に、答えられないということがある。醤油などの調味料など、どこまで細かく対応するのか検討しながら、各現場で事故が起きないよう留意している。

〇PTA 連合会　栗塚構成員

様々な取組をお聞きし、色々なところで熱心に取り組んでいただいてるということがわかった。私はアレルギーの子どもを持つ親であるが、アレルギーはすごく身近なものになっていて、知識がないと命に関わるすごく重大なものであると認識している。親になって子どもの友達同士と関わったりする場面があるが、他の子ども達が何のアレルギーを持っているのか全然知らずに関わることが多く、私達保護者もアレルギーに関しての知識をしっかり身につけておくことが大事であると感じている。また、子ども達自身も、一緒に生活している中で、何かあった時に大人に知らせるなど、そういった子どもへの教育も重要だと考える。

また、PTA でもアレルギーの研修等を取り入れていければいいなと感じた。

（３）　研修動画の作成について

〇事務局　資料４について説明。

〇花岡座長

さらに人材育成を推進するために、研修動画の作成について、皆様にご意見を伺いたい。まず研修動画のニーズはあるのか、ニーズがあるというときに、その対象やあるいは内容をどうするのか御意見お伺いしたい。

〇平山構成員

新しいスタッフの話を聞いていると、YouTube の動画で勉強している医療従事者も結構増えてきていると感じているが、YouTube にはたくさんの情報が流れてきており、何か一つの動画を視聴すると沢山の関連動画につながっていってしまうため、関連動画の信憑性はあるのか、確実な情報として医療従事者が拾っていってくれるのかという懸念がある。

ただ一般の県民を対象にした動画であれば、結構有意義な動画が作成できるのではないかと考えているところはある。

〇伊藤構成員

一般の方向けの動画については、アレルギーポータルに沢山動画が公開されている。そのため、長野県版を作る必要性はあまりないのではと考える。

医療従事者向けの研修動画も探せば沢山出てくるため、長野県として長野県の先生のために何が必要かを考えたほうがよい。例えば、生活管理指導表の書き方について長野県版の書き方を解説するような動画を作るなど。

また、動画の時間について、1 時間の動画を見るというのは苦痛になってしまうため、5 分とか 3 分など短いコンテンツでたくさん作るという方向性のほうがよいと思う。ただ、YouTube は誰もが視聴できるため、作成する場合は、コンテンツの著作権やイラストなど、そういったことも十分に留意する必要があることから、結構ハードルは高いと考える。

〇上條構成員

アレルギー専門医だとアレルギー学会の e ラーニングがあり、それらで十分と考える。長野県特有の動画となると、一体何がいいのかわからないのが正直なところ。

開業していると、スタッフの教育等について少し悩ませるところもあるため、スタッフ向けの動画の作成も候補としては考えられる。

〇花岡座長

メディカルスタッフの方々の知識の教育あるいは啓発に作成したらどうかというご意見であるが、開業の先生方は、医師会の研修会等、こういった動画コンテンツを視聴されるのか？

〇上條構成員

日々の診療でかなり多忙であるため、見る時間がないというのが正直なところ。また、学会など対面で講演を聞く方が集中することができ、ウェブだと何か聞き流してしまう部分があるため、自分から情報を求めていかないとなかなか長期に残らないという弱点がある。

〇木庭構成員

動画で勉強する、それをオンデマンドで見れる仕組みを作るということには基本的に賛成。例えば、来週開催予定の長野県が主催するアレルギーセミナーについても夕方の時間帯のため、多忙で視聴できない方がいることが想定される。

ただ伊藤先生からご発言もあったとおり、長時間の動画は自主的に見れないと思われる。また、YouTube については、何かパスワード等でアクセス制限をかけるのであればいいが、無制限に誰でも見れるということであると、対象者がはっきりしない内容のものを作ることになってしまい、作る側としても難しい。それよりかは、既成の動画を紹介するようなサイトを作ったほうがよいのでは。例えばアレルギーポータルの動画を周知するなど。

動画を作る側として思うのは、対象者をしっかり決めてターゲットを決めないと、例えば一般の方向けですと薬の宣伝にならないよう薬品名を入れてはいけないなど、大変注意が必要となる。

〇花岡座長

ご指摘の通りで、一部のメーカーに肩入れするような内容になってはいけない。また、既成の動画は結構あり、中心拠点病院の相模原病院でも医師向けの動画は沢山作成している。そういった動画を活用するというのも一つの案としてよいと考える。

〇小池構成員

今まで他の構成員から発言があったように、アレルギーポータルが非常に質も高く、医療者向けや学校関係者等に向けた様々なコンテンツがあるため、そのサイトに誘導するように紹介することが効率もよく、幅広く皆さんに見てもらえるのではないか。新しく作るとすれば、情報はアップデートされていくものであるため、期限を決めて公開する、何年かで更新するなどが必要と考える。

〇齋藤構成員

県民向けということであれば、動画作成に賛成。昨年度に第３期信州保健医療総合計画を策定してきて、その結果として、私達医療従事者が今までやってきた一つの成果として、県民に寄り添った内容の動画を県のホームページにリンクを貼り掲載することは、県民の皆さんに周知できるいい機会だと思うため、そういった意味で賛成。

歯科医師会の立場としては、私は歯科のみの専門であるため、医科の先生方の話は貴重な研修の機会になるため、そういった機会があれば、ぜひ利用させていただきたい。

〇鬼窪構成員

他の構成員と基本的に変わらないが、目的や対象をしっかり決めることはすごく大事。動画を作るという発想に関してはいいと思うが、懸念材料としては先ほど他の構成員からも意見が出たように、どこに掲載するのかというところ。

薬関係で言うと、情報が続々とアップデートされていくため、どんな頻度で更新していくのか等をあらかじめ決め、継続的に実施できるよう計画的にやっていく必要がある。

〇馬島構成員

栄養士会としては、先生方に研修会等で教えていただき、最新の専門的な知識を習得できればよいと思う一方で、様々な業者等が作成した研修動画についてもなかなか視聴して

いる暇がなく、せっかくお金をかけて作成しても、どれだけ見てもらえるのかという懸念があり、その辺も含めて研修動画の作成の必要性についてよく検討する必要があると考える。

〇花岡座長

長野県 PTA 連合会　栗塚構成員は、このような一般向けの動画があったらご覧になるか。ニーズはいかが。

〇栗塚構成員

もちろんアレルギーのお子さんがいる親御さんや関係者であれば視聴すると思うが、アレルギーに関心のない方は視聴しないと考える。一般の方は、研修動画に慣れていないため、集中して見れないという方も多い。研修動画よりも参集型の研修の方が実際に講師の先生を前にして、集中して話を聞くことができると考える。

〇長野県保健所長会　塚田構成員

地域保健分野の立場から考えると、母子保健関係者は、アレルギー疾患患者と接する機会が多く、乳幼児健診や家庭訪問などで大きな発信ができるチャネルを持っているという意味では、母子保健関係者の役割は非常に大きい。一方で、保健所や市町村の保健師、管理栄養士は新しいアレルギー疾患の知識を得る機会が少ないため、母子保健推進センター等で研修事業を実施してはいるが、可能であれば研修動画を活用して、専門職種に新しい知識や住民への情報発信方法、医療にかかるタイミング等を啓発することは、非常に有用と考えられる。

ただ、広がりが行政関係者に限定されてしまうという点においては、YouTube を使う汎用性のメリットがあるのかということやこの事業のベネフィットがどこまであるのか等については検討課題である。

〇花岡座長

今までの構成員からの発言をまとめると、目的と対象をはっきりさせたいということ。あと内容についても少し精査し、できるだけ短時間の動画を作成する。また、配信する媒体として、YouTube でいいのかどうか、安全性を含めて検討が必要というご意見だった。

皆様からいただいたご意見については、事務局で整理し、その中で実際に実施運用可能かどうか、検討を進めていく。

（4）その他

〇上條構成員

木庭構成員へ質問になるが、成人の食物アレルギー患者の負荷試験や保険適用外のアレルゲンコンポーネント検査について、皮膚科に紹介すれば実施いただけるのか。信州大学の拠点病院の活動が開業医からは見えにくいところがあり、質問させていただきたい。

〇木庭構成員

思春期以降の患者の食物アレルギーや薬物アレルギーが疑われる場合の負荷試験や皮膚テストは、皮膚科で実施している。基本的に保険適用の範囲内で検査等を実施しており、アレルゲンコンポーネントなどの保険収載されていないものは行っていない。非常にリスクが高い方は入院で実施するが、そこまでリスクが高くないと予測される場合は、日帰りで実施している。

〇伊藤構成員

本日、PTA 連合会の栗塚構成員の話をお聞きし、子どものアレルギー教育について考えていく必要があるのではないかと感じた。医療従事者への研修が充実してきているが、県民の方への啓発はまだ少なく、年１回のアレルギーフォーラムしかないため、県民への啓発についてもう少し取り組む必要がある。

それと同時に、子どもに対してはアレルギーがイジメの原因に繋がったり、アトピー性皮膚炎で心を病んだり、そういったことが起こり得るため、子どもがアレルギーに関して勉強する機会や、パンフレットやテキストなどについて、何か長野県で取り組めたらよい。

また、個別に私に相談があったこととしては、観光に関すること。最近コロナが終わり、白馬でインバウンドの旅行客が増加してきているところであるが、学生や修学旅行の受け入れも増えてきているなか、食物アレルギーの対応に困っているという話を聞いている。長野県らしさという意味ではそういったところに着目して、何かホテルや旅館、民泊等へのアレルギーの対策について取り組めるといいのではと考える。

〇花岡座長

貴重なご意見いただき感謝。事務局で精査し、先生方とご相談しながら進めてまいりたい。

特にインバウンドの旅行者について、確かに重要な問題だと考える。受け入れ先のホテルや旅館で対応に苦慮することもあるかと考えられるため、そういった方々への周知や教育も重要な課題。

まだまだ課題は山積かと思うが、皆様のお力をお借りし、県と一体となって長野県のアレルギーの診療体制について、より充実したものにさせていきたい。